

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人 博文会		
事業所名	グループホーム永の郷		
所在地	熊本市城南町永1209番地		
自己評価作成日	平成22年7月30日	評価結果市町村受理日	平成22年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	2010年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

熊本市から緑川を渡り、のどかな田園風景が広がるとても空気が澄んだ中に位置している。平屋の建物がよりゆったり感を醸しだしている。併設のグラウンドでは、朝は地域の方々がグラウンドゴルフで汗をながされ、日が傾きかけるころには、子どもたちの歓声が聞こえてくるという地域に根ざした事業所です。また、ご利用者を本当の家族としてケアをすることが、理念にうたわれているので、その理念に向かって職員一同創意工夫しながら、一緒に生活をしている。ひとりひとりを大切にそれぞれに通じ合うケアを目指し奮闘しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名を地域の人にとって馴染みのある名称として、開設時より地域との関係強化に取組み、地域交流行事としての「どんどこや」や「グラウンドゴルフ」へのグラウンドの開放は常態化し、ボランティア(フラダンス・ひよっとこ祭り保存会等)の訪問、園児・小学生等の慰問等世代を超えた交流、近隣住民の見守り協力等連携を図っている。法人理念のもと“あなたの痛みをわかりたい だから、笑顔で心配りのできる人になりたい”をホーム理念に、高齢者福祉に熱い思いを寄せる管理者のリーダーシップのもと、全職員が環境整備やリスクマネジメント等の委員として責任を持った職務への取組み、観察力を活かしたケアは入居者の笑顔での主体的な生活を支援している。火の見やぐらや入口には貯水槽という立地条件を生かし、高齢者福祉とともに防災面からも地域の核として大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな生活を送る」ための支援を理念に唱ってあり、毎朝朝礼時に復唱して共有し実践につなげている。	法人理念をもとにグループホームとして“あなたの痛みをわかりたい だから、笑顔で心配りのできる人になりたい”を規範として、管理者は日々理念に則り介護の話をしたり、自分の親のように大切にすることを指導している。理念の他職員心得10カ条、行動指針4項目の掲示や唱和により意識向上を図り、職員は笑顔で理念の実践に真摯に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所所有のグラウンドを地域に開放しているので、朝は、近隣の方々のグラウンドゴルフ、夕は、子供たちの遊び場となっている。	開設時より地域との関係強化に取組み、地域交流行事として「どんどや」や「グラウンドゴルフ」に事業所のグラウンドを開放し、多くの住民が参加されている。自治会への加入や回覧板の受渡し、近隣住民から農作物のおすそわけ等もあり、保育園児や小学生の慰問等多く、世代間交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年「地域交流会」と銘うって地域の高齢者もお招きして、ご利用者と直接交流していただいたり、運営推進会議のメンバーに地域の方々になってもらい、勉強会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ、不十分だが、区長、民生委員、老人会代表消防団、郵便局長、保育園長などに、常に出席していただいている。	運営推進会議は21年度は4回開催し、地域交流や事業所内行事等を報告し、意見交換を行っている。今年度は合併により町役場職員から包括支援センター職員の参加となり、家族代表の参加も得るようになってきている。防災訓練ではサポーターとして訓練へ参加協力を申し出られる等委員はホームに好意的であることが窺われる。	委員のメンバー構成は十分である。委員からの意見を議事録に残したり記載方法の工夫や参加の無い家族への開示、定期的な開催により今後もホーム運営に反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	合併前は、運営推進会議のメンバーにもなってもらっていましたが、合併後はどちらかといえば、社会福祉協議会との結びつきが活発である。	社協主催の地域ネットワーク委員として参加したり、認知症サポーター指導者研修へ参加している。	合併により行政よりも社協との関係が密なものとなっており、今後行政との関係強化にホームの実情やケアサービスの取組みを発信し協力関係を深めていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「NO身体拘束」をモットーに職員全員意識している。研修などで、常日頃から全員共有できるような取り組みを実践している。	身体拘束廃止マニュアルのもと、ニュースや資料を用いた事例検討を行い、入居者の行動には何か意味があるということを全職員が理解し抑制等の拘束の無いケアを実践している。玄関や居室も開放し、外出傾向には一緒に散歩に出たり、地域住民の見守りの協力支援も受け自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県のライブラリーの資料を使って職員研修を実施したり、ニュースなどの事件等も朝礼でも取り上げ常に意識をもってケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に、2親等以内の血縁がいない方もご利用されているので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず事前にお会いして、ご家族の不安、疑問にお答えしています。その後契約をしますので、充分にご理解していただけていると思っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会を開催しているので、その際に、家族の不安や疑問、要望にこたえられるような体制でいます。その会には代表者も常に出席しています。	家族の訪問時に居室で現状を報告し意見や要望を聞いたり、家族会を問題提起の場と年6回開催している。玄関に苦情受付箱を設置し、外部苦情申立機関も明示している。	家族会は年6回開催されており、今後家族会の議事録の作成や家族会の中で、家族同士がフランクに語り合える時間を設けることで、忌憚のない意見や要望が出しやすくなると思われる。今後も家族の意見等を運営に活かし、更なるケア向上の一環とされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の研修時に職員皆で、運営に関する意見を交換し活かしている。	毎月第4金曜日に行なう研修会で問題点や意見を出し合い話し合ったり、日々管理者は職員とのコミュニケーションにより働き甲斐の有る職場環境に努めている。入居者の身体機能低下によりピアノの設置場所を移動し手すりを使いやすくしたり、テーブルのレイアウト変更等職員の観察力が生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もまめに事業所に来て、職員からの意見を聞き改善に努めている。また、社会保険労務士が時折来所して、労働環境について話し合いをされる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政、社協、グループホームブロック会等の勉強会には、積極的に職員を参加させている。遠方の会議や宿泊研修には現実出席しにくいのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会に定期的に参加して、勉強会や意見交換会で、常に新しい情報へのアンテナを向けサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安感、要望等には、耳を傾けているが、ご利用直前の環境がそれぞれに違うので、ご家族と本人の考えにずれがあることも少なくない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用以前にある程度の把握はしているつもりだが、契約時、ご利用時にあらためて傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する意識作りは、常に職員には申し伝えているので、半数以上の職員は実践していると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所された際に、本人が孤立感、孤独感を感じないように、できるだけ訪問していただけるように、ご家族には協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記と同等に、馴染みのかた、旧友の訪問もご家族を通して積極的に働きかけをしている。	家族や旧友の来訪されたり、家族との墓参、自宅近くの商店に出かけるなど、馴染みの人・場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝の日課に「ラジオ体操・リハビリ体操」や「今月のうた」をご利用者全員で実行している。歌の選曲も利用者、職員と話し合い、童謡・民謡・懐メロの3曲を歌っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前の相談にも応じ、移転先にも情報提供を惜しまず協力している。転居先を訪ねることもある。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「チームケア」もモットーに職員全員が本人の意向や希望を共有し、プラン実践につなげている。	“今やりたい事”の希望に応じることがモットーであると、「帰りたい」との希望に自宅へ行ってみる等“今”に着目したケアに努力している。発語困難者には過去のアセスメントや家族の情報を得たり、職員がアクションを起こすこと(働きかけ)により、意向や希望を引き出す工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	左記の項目に関しての把握も大切だとは考えるが、一緒に生活し始めてからの本人の行動や動作などから過去の生活と照らし合わせるような手法を試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まず、本人の1日の動向の観察を主眼にして、レク参加状況、生活レク依頼の中から現状把握をするようにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	この一年の間に介護支援専門員の交替があり、十分とはいえないのが現状である。	センター方式を採用し、ADL・IADL等を勘案し、担当職員によるモニタリングをもとに介護計画担当者が3ヶ月毎に見直す事としている。詳細な個別援助計画である。	ニーズに沿った個別記録は充実しており、今後も全員でモニタリングを行い、職員の観察の結果をプランに反映するよう検討していただくと更にアイデアや意見が反映されるものと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ニーズが多い為、もう少し検討の必要性を感じている。介護者主導でも計画作成者主導でもない、常にご利用者が真ん中にある介護計画をと苦悩している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これを実現する為の過程で、ニーズが多くなってしまっている。日夜、職員は枠にとられない新しい介護を模索している。と言っても過言ではない。グループホームの当初のコンセプトとは現実はかなりかけ離れてきている気がする。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな環境、地域との密な繋がりから、合併してエリアが広がり、社会資源も飛躍的に拡大した。これを上手く活用して利用者に提供できるように実践していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切にし、職員の通院支援、協力医の往診を駆使して、迅速な対応に努めている。	本人・家族の希望するかかりつけ医とし、受診時には職員対応とし、協力医の往診もある。日々の健康管理により異常の早期発見に努め、代表と管理者とのオンコール体制を敷き、緊急時に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職だからこそ常に利用者の心身の状況には注意し、変化がある場合にはすぐさま看護職に診てもらい、様子観察か、通院かの助言を仰ぐ場合が結構ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	もちろん、病院関係者との情報交換は蜜に行っている。ただ、ご家族の一番の不安は入院が長引けば退所になるのではないかとという不安である。契約書には期間は記載していない。回復の見込みがある方はできる限りお受けしたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、ターミナルケアはなかなか難しいと考えているが、日常的に医療行為を必要とする直前までは、ケアをさせていただくように家族には理解していただいていると思っている。	医療行為が常時必要でなければ出来る限りホームでの生活継続を支援することを説明しており、ターミナルケアは出来ないことを家族は理解されている。	高齢化・重度化に伴い、入居者の状態変化は予測不可能であり、ホームで「できること・できないこと」「どんな時にどのような対応が必要か」等家族や職員と話し合い、ケア方針の明文化を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修では学んではいるが、まだまだ不十分である。急変時では、代表者・管理者が連絡を受け、救急搬送する場合はほとんどである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制は、築けていると思っているが、実際に訓練をしていないので、なんともいえない今年度中には実施できればと考えている。	年1回の総合訓練と1回の研修をDVD等を使用し開催している。運営推進会議には地域の消防団から毎回の参加があり協力要請をおこなっており、今後台風等を含め自然災害の訓練を地域とともに行なう意向である。ハザードマップの掲示や水を準備し、日々の火元確認を徹底している。	近くには火の見やぐらやホーム入口には貯水槽もあり、運営推進会議参加委員も災害時のサポーターとして協力的であることにより、地域防災の核としてホームの存在が期待できる。地域住民も含めた防災訓練の早期実施と風水害時のマニュアルを全職員とともに作成し、昼間はホーム側が地域に貢献できることや夜間は地域住民の協力が必要であることなど運営推進会議の中で話し合い、協力体制を構築されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私の私論である「声のトーンケア」という考えを基本にして、ご利用者と職員間会話の声のトーンが同じであるようにすることこそ、人格の尊重の根源であることを皆に理解してもらっている。	管理者は人格の尊重を“声のトーンケア”にあるとし、入居者と職員との会話や言葉使いにも配慮したケアを行なっている。プライバシーの確保等外部研修参加者による復講を行ったり、接遇についての勉強会等を開催し全職員の共有化を図っている。職員目線での声かけやトイレ誘導等誇りやプライバシーに配慮した支援であることが確認できた。個人情報保護方針を掲示し、職員からも守秘義務については文書を交わしている。	入居者・家族等のプライバシーには十分な配慮がなされているが、家族に対して個人情報使用についての同意書を作成し同意を得られることも必要と思われる。同意書の受入れにより、現在の充実した個別のお便りが、更に充実したホーム便りになることが期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望等にうそをつかないで、実行するようにしている。たとえば、帰宅願望が強い方はいえまでドライブしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にすることと、共同生活を楽しくすごしていただくことは、必ずしも一致しない場合もあるが、時には業務優先になる場合があるかもしれないので、いつも知恵を出し合いながらとりにくんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	退所前の相談にも応じ、移転先にも情報提供を惜しまず協力している。転居先を訪ねることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様方と一緒に準備をしていただいたり、片付けぞしたりして生活しています。また、普通食、お粥キザミ、ミキサーなど個々に応じた食事形態を提供している。	盛り付けを手伝ったり、配膳・下膳等一緒に取り組み、介助の必要な入居者の横で検食者を含め2名の職員と一緒に食卓を囲んでいる。家庭菜園で育てた季節の野菜も食卓に上り、入居者一人ひとりの嚥下・咀嚼状態によりお粥やキザミ・ミキサー食、嚥下体操・歌ったり、また口腔ケアにも重点を置き、野外昼食会等を取り入れている。	昼食時には他の職員も声かけや見守りが行なわれているが、職員の時間配分、ローテーション等全員で再検討し、全員が食卓に座って見守り支援できる体制に期待したい。入居者一人ひとりに声をかけたり、食の進み具合を観察することは重度化が進む中では必要であり課題であると思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、お粥キザミ、ミキサーなど個々に応じた食事形態を提供している。また、食事摂取量、水分チェックは毎日記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	最近、口腔ケアの重要性が殊さら言われ始めている。また、母体が歯科医なので、特に力をいれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時排尿を止めて3年、個々のパターンをほぼ把握できているので、実践できている。排泄の失敗は職員の怠慢を自覚している。	排尿・排便パターンの詳細な記録により個々の状況を把握し、オムツ使用を控え、気持ちよく過ごしてもらえるようにトイレへ誘導し自信へと繋げている。下着も布パンツやリハビリパンツを一人ひとりの状態、その時々で使い分けし、夜間も2名はポータブル使用、他の入居者はトイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らない自然排便にしたいのですが、これはなかなか個々に相違があらわれるので、排便チェックを活用して、コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数は3回から6回と実施しているが、業務等で職員の都合になっているのは、いなめない。	基本的には午後からの入浴であるが、希望による朝からシャワー、夏場は発汗状態や汚染等によるシャワー浴等を支援している。ゆず湯やしょうぶ湯等季節風呂を取り入れ、日々個々の皮膚状態を見極め石鹸等の使い分けを行い、チェック表により間隔が空かないよう清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠休息支援はできていると思う。就寝時刻も平均で21:30、遅い方は23:00ごろ休まれる方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は命にかかわる大切な支援のひとつであるので、職員皆理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中にリズムがつけられるように、「体操」「今月の歌」をご利用者と決め皆で楽しみの一つにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員体制に余裕がある時には、ドライブやイベントに行くこともある。散歩は、当グラウンドで、季節を感じていただいている。	事業所のグラウンドや近くの阿弥陀堂へのお参り、ふるさと訪問(ドライブ)等へ出かけたり、計画を立てた季節毎の外出(アジサイ・桜・コスモス・動植物園等)を家族にも呼びかけながら支援している。	車椅子を押して近くの商業施設に家族と出かけられる等家族の協力支援もあり、楽しみ事にも広がりを見せている。今後も継続して家族への協力を依頼し、戸外へ出かけられることが多くなることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はいらっしゃらないので、買い物希望あられる方には、買い物支援をしている。また、ショッピングセンターに皆で行き、買い物を楽しむことも行事には組みこんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかることもまれなので、手紙を出したりするような支援は今後の課題として取り組みたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設立8年目なので、当時のコンセプトと今とでは、かなりのズレが感じられるが、その時々に応じられるように創意工夫して取り組んでいる。	壁面を利用し多くの写真や入居者の作品を掲示し、共有空間のテーブルも入居者の個々の状況や好きな場所を選択できるようにレイアウトに工夫をしている。室内から稲の生育を眺めることもできる環境やチェック表による温度管理の徹底、生活リハビリの一環としてのモップがけによる掃除もされ、異臭も無く、暑さ対策によしずを使用したり、入居者の現状を良く認識した共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今一番職員で考えているのが居場所づくりであり物理的な問題もあり、代表者との折衝もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最優先に本人や家族の意思を尊重して配置していただいている。が、本人にリスクがあらわれるような場合には、一緒に考えている。	箆笥やベッド等が持ち込まれ、本人・家族の意向によるレイアウトとしているが、個々のリスク等を勘案し家族と相談しながら居心地良く過ごすよう工夫している。クロゼットが備え付けられ、整理整頓、掃除が行届き、出窓を有効活用し人形を飾ったり、家族写真を置いたり個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	充分とはいえないが、安全かつできるだけ自立した生活が送れるようなテーブル配置など常に思考錯誤している。		